

移住労働者の児童の就学促進プロジェクト

3 地域合同ワークショップ報告書

(2025 年 11 月)

教育省学習振興局

バンコク都

バーンボン区、バーンクンティアン区、プラウェート区、ラートクラバン区

ラヨン県タップマー市

公益財団法人 笹川平和財団

公益財団法人 国際労働財団

野毛坂グローバル

移住労働者の児童の就学促進プロジェクト

3 地域合同ワークショップ報告書

1. 概要

2025 年 11 月 26 日、移住労働者の児童の就学促進プロジェクトの 3 地域合同ワークショップが、バーンボン区役所にて、ラオー・タンセン バーンボン区長を議長とし、パイロット地域であるバンコク都バーンボン区、バーンクンティアン区、プラウエート区、ラートクラバン区の区長もしくは区の代表、ラヨン県タップマー市長や各地域の就学促進ボランティア、学習振興センター（Learning Encouragement Center: LEC）代表、国連機関、在タイ日本国大使館、JICA 等 74 名が参加して開催された。なお、本プロジェクトは、笹川平和財団（SPF）、国際労働財団（JILAF）、野毛坂グローバル（NGZ）が実施協力しているものである。

本プロジェクトは、タイ国内のパイロット地域の移住労働者の対象年齢の子どもたちが、タイの公立学校または学習振興センターに入学する制度が整備されることを目的に、就学促進活動、タイ語学習支援プログラムおよび関係機関の連携活動などを行っている。

バンコク都内 3 区（バーンボン、バーンクンティアン、プラウエート）からは、「国籍に関わらず子どもたちに教育への平等なアクセスを実現し、取り残される児童が出ないように、彼らが社会の一員として発展に貢献できるようにしていきたい」との方針が表明された。また、小学校に就学した児童には、タイ人児童と同様に、制服、教科書、教材、朝食、昼食、牛乳が無償提供されていることが報告された。これは、15 年間の質の高い基礎教育を無償提供するというタイ政府の方針に基づくものであり、都内のパイロット区では移民児童の登録支援も進められている。

ラヨン県タップマー市からは、就学促進ボランティアがコミュニティ内で計 6 回の実地調査を実施したことが報告された。発表では、これらの調査から見えてきた課題と今後の計画も共有された。

ワークショップ全体を通して、就学促進ボランティア研修や同ボランティアによる未就学児童調査、タイ語学習支援プログラムなど、各パイロット地域で今年度実施された活動の成果と課題が共有された。

2. プロジェクトの概要

プロジェクト目標

タイ国内のパイロット地域の移住労働者の対象年齢の子どもたちが、タイの公立学校または学習振興センターに入学する制度が整備される。

期待される成果

- (1) 地域コミュニティによる移住労働者の児童に対する就学促進活動が実施される。
- (2) タイ語学習支援プログラムを通じて言葉の就学障壁を軽減し、学齢の児童が公立小学校に通えるようになる。
- (3) 過年齢の児童が、小学校卒業資格が得られる公的な学習振興特別プログラムを受けられる。
- (4) 公立学校、公教育担当行政機関、学習振興センター、ノンフォーマル教育担当行政機関、自治体との連携体制が構築される。

3. 各地域からのプロジェクト実施状況のプレゼンテーション概要

(1) バーンボン区およびバーンクンティアン区

バーンボン区とバーンクンティアン区からは、外国籍児童生徒の受入れ状況、プロジェクト（JILAF、มูลนิธิเพื่อเยาวชนชนบท: FRY/ม.ย.ช., LEC/สกร.などの協力）の具体的な活動、および課題について報告された。

1-1. 現状と課題

バーンクンティアン区内のバンコク都庁（BMA）傘下 16 校の教育サービスを支援しており、約 700 人の教師と合計 14,300 人の学生を監督している。

同区内には他にも、10 の私立学校、4 つの教育省所管の公立学校、1 つの大学がある

主な課題は、外国籍児童の多くがタイ語のコミュニケーション能力に制限があるため、授業への参加や学習が困難であることである。

1-2. バーンボン区の取り組み:

- ライフスキル、スポーツ、音楽や芸術をタイ人生徒と外国籍生徒と一緒に活動できるようにしている。
- ピアサポート：同区の学校では、タイ語の基礎的なコミュニケーションスキルを持つ外国籍の生徒を「ピアリーダー」として活用し、新しく来た生徒のコミュニケーションや学習を助けている。

1-3. プロジェクト活動（1）：未就学児童の状況調査

① 協力体制

มูลนิธิเพื่อเยาวชนชนบท (FRY/ม.ย.ช.) とバーンボン学習振興センター

（ศูนย์ส่งเสริมการเรียนรู้: สกร. Bang Bon 以下 LEC）は、連携の下、学校に通っていない学齢期児童の状況調査と、彼らを正規の教育システムへ移行させるためのタイ語学習支援プログラムを実施している。

② 調査の目的、概要と進捗

- 学齢期にあるにもかかわらず学校に通っていない4歳から15歳までの移住労働者の児童を発見し（目標200人）、彼らの教育アクセスを阻む要因を特定することを目的とする。
- 調査に先立ち、保護者やコミュニティのメンバーが、移住労働者の児童の教育アクセスを支援するボランティアとして積極的に役割を果たすようにするため、保護者会議が実施された。
- 保護者とボランティア合計70名が会議に参加し、協力に同意した。



③ 未就学の要因

No.	理由	割合 (%)
1	タイ語が話せない	30
2	出生証明などの書類が無い	12
3	その他（世帯収入が少ない、子どもが多い、保護者が児童に就学資格がないと思い込んでいる、入学登録の場所と方法がわからない）	52

④ 今後のボランティア活動計画

- 就学促進ボランティア制度の確立：公務員への研修、ボランティア自身への研修、およびボランティア用マニュアルの作成など。
- 戸別訪問：就学促進ボランティアは、未就学児童の保護者への戸別訪問を行い、情報提供を行うこと。

1-4. プロジェクト活動（2）：タイ語学習支援プログラムの実施

① プログラムの目的と対象

このプログラムは、子どもたちが基本的なタイ語の読み書き能力を身につけ、タイ社会で自信を持って生活し、タイの正規教育システムへスムーズに移行するための準備を整えることを目標としている。

対象となるのは、タイ語のコミュニケーション、読み書きのスキルが不足している 8 歳から 14 歳の移住労働者の児童で、LEC でのノンフォーマル教基礎教育（Non-Formal Education/ NFE）プログラムへの登録を希望している子どもたちである。

② プログラム構造/カリキュラム：

- ・カリキュラム：タイ語学習支援カリキュラム（仏暦 2557 年/2014 年）および FRY のカリキュラム。
- ・学習方法：教室ベースの指導で、月曜日から金曜日まで。
- ・期間：1 学期から最長 1 学年（1 年間）。子どもの基礎能力に応じて決定される

表：タイ語準備クラスの在籍者数（2025 年度 第 2 学期）

クラスレベル	対象年齢（歳）	人数（人）	備考
レベル 1（基礎）	10-13	4	新規受け入れ。タイ語が全くできない生徒にはミャンマー人教師が補助。
レベル 2（準備）	10-13	20	タイ語能力がレベル 1 より高い生徒。
合計（タイ語準備クラス）	-	24	

1-5. プロジェクト活動（3）NFE 基礎教育プログラムの実施

タイの戸籍を持たない 8 歳から 15 歳の子どもを対象とした 3 年間のノンフォーマル教基礎教育プログラム（NFE）が実施されている。このプログラムでは、タイ語基礎能力の評価を通過することが入学条件とされている。

① NFE 基礎教育プログラム（3 年コース）

対象者/学習者：

- ・戸籍登録の証明書がない、またはタイ国籍を持たない 8 歳から 15 歳の児童で、教育当局がやむを得ない理由により正規の学校制度に入学できないと判断した者。

入学条件：

- ・初等教育レベルの学習に必要なタイ語基礎能力評価を通過すること。

プログラム詳細：

- ・期間：3 年間（ただし 5 年を超えない）。初等教育段階の義務教育年齢（12 歳）に達する前にプログラムを修了してはならない。

- 修了: カリキュラムの基準に従い、学習者は Bang Bon LEC から公式な学業証明書を受け取る



表：NFE 基礎教育プログラムの在籍者数（2025 年度 第 2 学期）

レベル	対象年齢（歳）	人数（人）	期間
初等教育レベル	11-14	18	3 年（最長 5 年）

1-6. バーンクンティアン区における支援状況

① プロジェクトによる支援: バーンクンティアン区役所は JILAF と協議し、ワット・スタムワディーとワット・カムペーンの寺院を「パイロット教室」および「パイロット地域」としてプロジェクト実施のために準備した。

現在、ワット・スタムワディーでは既にプロジェクトの実施が始まっている。



② ワット・スタムワディー/バーンクンティアン区 学習振興センター/ Bang Khuntian LEC による教育支援の目的 ศูนย์ส่งเสริมการเรียนรู้ระดับเขตบางขุนเทียน (Bang Khuntian LEC)

- 公平な教育アクセスの拡大: 移住児童の合法的な教育システムへの入学を支援し、沿岸地域や移住労働者コミュニティでの中退や非就学児童の問題を減らす。

- **基礎的言語スキルの育成:** 生活および学校の準備のためのタイ語学習を促進し、コミュニケーション能力と自信を高めるための英語能力を開発する。
- **ライフスキルと職業スキルの強化:** 安全、衛生、タイ社会への社会統合に関連するライフスキル活動を組織し、コミュニティの文脈に適した**短期職業訓練**を提供する。
- **安全で多様性を尊重した学習環境の構築:** 教育環境での文化理解を促進し、移住児童に対する差別や社会的な暴力を減らす。
- **家族とコミュニティの教育参加の促進:** 保護者への教育の権利に関する情報提供を行い、コミュニティリーダーや現地組織との協力体制を構築する。
- **政府・民間・市民社会間の連携メカニズムの確立:** DOLE、区内学校、公衆衛生サービス、地方行政組織、移住児童関連財団の間で取り組みを統合し、学生証発行や健康診断などのサービス経路を改善する。
- **学習の質の向上:** 移住児童がタイ社会に適応し成功できるよう学習の質を向上させる。21世紀の学習スキルを促進し、継続的な発達・成果評価を行う。

1-7. バーンクンティアン区における課題

- **教育へのアクセスが不十分:** コミュニティが分散していること、保護者が書類の問題や摘発への恐れからシステムに入りたがらないこと、出生証明書や身分証明書がないため入学が遅れることが多い。
- **移住労働者家族の移動率が高い:** 労働者コミュニティの移動頻度が高く、子どもが途中で中退し学習が中断される。学校や DOLE が学生の追跡を迅速に行えない。
- **言語と文化の違い:** 多くの児童がタイ語の聞き取りや会話が苦手で授業内容についていけない。一部の家族はタイの教育制度を理解していない。ミャンマー語、モン語、クメール語、ラオ語など言語が多様である。
- **教員・職員の専門知識不足:** 教員の一部が多文化または文化的に対応した教育アプローチに慣れていない。第二言語としてのタイ語（TSL）指導スキルが不足している。教員数が特定の学習者グループのニーズに見合っていない。
- **予算と資源の不足:** 移住児童支援への資金が限られている。2~3言語に対応した教材が不足している。コミュニティ学習センターは外部ネットワークの支援に大きく依存している。
- **家族の法的・身分証明の問題:** 一部の保護者が有効な就労許可証を持っていないため、子どもの入学に消極的になる。身分証明書がない子どもがいるため入学手続きが滞る。逮捕リスクを避けるため、家族が公的機関との接触を避ける。
- **健康と安全のリスク:** 多くの家族が工場で働くため、子どもが危険な生活環境にいる。ワクチン接種や病気予防などの基本的な衛生知識が不足している。一部の子どもは家族を助けるために働き、欠席が多い。
- **関係機関間の連携の弱さ:** 学校、DOLE、公衆衛生部門、地方行政組織の間でデータ共有が体系化されていない。非就学児童や新規移住者の追跡メカニズムがない。現在の支援は恒久的な統合システムではなく、短期的なアドホックなプロジェクトに依存している。
- **社会の否定的な態度とスティグマ:** 一部の移住児童が仲間からからかいや差別を受ける。一部のコミュニティ住民は病気や安全に関する懸念を示し、子どもの適応や全体的な環境に影響を与えている。

（２）プラウェート区およびラートクラバン区

両区からは、BMA（バンコク都庁）傘下学校での外国籍学生の在籍状況、地域社会での連携、および学齢期外の学生に対する学習支援の取り組みについて報告された。

2-1. プラウェート区の現状

- プラウェート区内の BMA 学校（16 校）は、タイ人学生と同等の無償教育を提供している。
- 多くの外国籍学生が、主に廃品回収業者が多く住むテープラクサー(เทพรักษา)コミュニティに居住している。



2-2. プラウェート区の未就学児童への支援

- テープラクサー・コミュニティ内では NGO が、地域リーダーと協力し、子どもの日や移動図書館サービスなどの活動を支援している
- ワット・クラトゥムスアプラ（Wat Krathum Suea Pla）の協力を得て、外国籍児童のための土曜教室（2 クラス）を提供している。
- 土曜クラスの運営について、保護者の理解を深めるために**移住労働者のボランティアが仲介役（สื่อกลาง）として活用されている。**
- プラウェート学習振興センター（Prawet LEC）は「Zero Dropout」調査によって**読み書きができないターゲットグループを発見した¹。**
- 未就学の移住労働者の児童 20 人が**タイ語学習支援プログラム**（2025 年 6 月～10 月）に参加。そのうち **2 名**がタイ語評価に**合格**。2025 年度第 2 学期に**初等教育**に進学している。

¹ タイ政府・Equitable Education Fund（EEF 公正な教育のための基金

กองทุนเพื่อความเสมอภาคทางการศึกษา หรือ กสศ.) は、「ゼロドロップアウト政策」を推進するために、EEF はパイロット地域を指定し、「教育制度外の子ども・若者」の実態把握のための調査を実施している。タイでは学校制度 3-18 歳の総人口 11,998,304 名のうち、約 100 万人が「**教育制度にデータのない状態**」なので、これを解消するための政策である。

- **学習支援の課題:** 子どもがタイ語ができないために、入学後2週間で辞めてしまう事例が発生している。入学前にタイ語の準備クラスを提供する必要がある。
- **新規課題グループ:** ミャンマーやタイヤイ（Shan）に加えて、パキスタンなど新しい国籍の学習者が増えており、対応が求められている。



2-3. ラートクラバン区 学習サポートの現状

ラートクラバン区では、主に未就学の学習者や僧侶に対するタイ語教育が行われている。

① ワット・ワチラタムマワート（Wat Wachira Thammavat）：

- **仏教僧の学習者:** バングラデシュ出身の僧侶12人（成人）に対し、基本的な日常会話のタイ語スキルを教えている。
- **移住労働者の児童・青少年:** ビルマ、パオ、モン、ラオスなど多様な国籍の移住労働者の児童19人（15歳未満5人、15歳以上14人）に対し、タイ語とタイ文化の学習を支援している。



上写真 ロムクラオ住宅コミュニティ第5ゾーンの保健センターで、学習センターを開講

ラートクラバン区でも将来的にはボランティアによる支援活動が計画されている。

2-4. ラートクラバン LEC が直面する課題

- **地域の状況:** ラートクラバン区は工場地帯が3つあり、外国人労働者が多い。
- **資金調達の制約:** LEC が外部の支援（プロジェクト資金など）を直接受け取るためには、本省（財務省）との調整が必要であり、この制度的な問題が解決されていない。
- **未就学児童の募集:** 15歳未満の移住児童を募集しているが、応募は想定を下回っている。ポスターはタイ語のみで作成されているため、工場や団地にアクセスし、直接募集する必要がある。

(3) ラヨン県タップマー市

3-1. タップマー市の現状（2025 年 8 月時点）

タップマー市は EEC（東部経済回廊）の一部である。

3-2. タップマー市の就学促進ボランティア活動概要

タップマー市では、就学促進ボランティアがこのプロジェクトの基盤構築と今後の活動計画の両方において中心的な役割を果たしている。

① 実施された活動と体制

- **初期基盤の確立**：事業の基盤を確立するため、ボランティア向けの会議やワークショップが開催された。
- **地域指導者の参画**：地域社会の指導者たちは、子どもの就学を積極的に支援するボランティアとして参画し、重要な役割を果たしている。
- **ボランティア部門の設置**：タップマー市は、プロジェクト実施チームの一部として、「コミュニティ・ボランティア・セクション」を組織的に任命した。

部門	構成員	人数（人）
1. 地方行政（村落 準地区長（Kamnan）、副準地区長、村長 統治）部門	（Phuyaiban）、副村長補佐官	56
2. 市役所部門	市幹部および部署長、教育職員、看護師、公衆衛生職員、ソーシャルワーカー、地域開発職員、防災減災職員、教師、その他任命された職員	69（幹部・部署長 13 + 職員 56）
3. コミュニティボランティア部門	コミュニティ委員、村の保健ボランティア（VHVs）、女性開発ボランティアグループ	380（VHVs 300 + 女性開発 80）

② ワーキンググループの任務

- (1) 各村の移住・外国籍学生に関するデータの調査と収集を行う。
- (2) コミュニティと関連機関間の協力の円滑化を図る。

3-3. プロジェクト活動の進捗（現地調査および連携）

タップマー市では、プロジェクトの開始に向けて、複数の現地調査と連携活動が実施された。

調査回数	実施日	協力機関/参加者	調査場所/目的
第 1 回	2023 年 8 月 31 日	NGZ（奥井氏）	バーンサパンヒンコミュニティ（Moo 8）、ラヨン魚醤産業などでの基礎調査。
（第 1 回）	2024 年 2 月 29 日	タップマー市教育部 門	Moo 8、バーンサパンヒン地区の移住児童人口の調査。

第 2 回	2025 年 2 月 13 日	タマサート大学、 FRY、SPF、NGZ、 JILAF、日本人学生	Moo 8、バーンサパンヒン地区の移住児童人口の調査。
第 3 回	2025 年 2 月 18 日	チュラロンコン大 学、SPF、NGZ、 JILAF	ワットタップマーコミュニティ小学校、ラヨン県特別教育センター、タップマー幼稚園など、教育機関に在籍する移住児童のデータ収集。
第 4 回	2025 年 8 月 7 日	NGZ (奥井氏)	バーンサパンヒンコミュニティの移住児童人口の調査。
第 5 回/ 第 6 回	2025 年 11 月 12 日-21 日	市の行政チーム、公 衆衛生部門、幼稚園 教師	Moo 1~8 の全域を対象に、移住児童と労働者の調査とデータ収集（ベースライン情報作成が目的）。



3-4. 日本訪問（MOU 締結および視察）

日本側パートナーとの MOU 締結：2025 年 10 月 6 日に、SPF にて、タップマー市、SPF、NGZ、JILAF の 4 者間で MOU 締結式が行われた。協力の目的は、相互学習を通じて教育支援プロジェクトを促進・強化することである。

3-5. タマサート大学との MOU 締結

2024 年 11 月 12 日にタマサート大学社会福祉学部（ラングシットキャンパス）にて MOU に署名。プロジェクトリーダーであるタンヤーポーン・チャンタラウエーチ助教授が協力の枠組みについて発表した。

3-6 主要な課題と障壁

タップマー市は、プロジェクトの実施において、以下の主要な課題と障壁に直面している。

- 6
- 言語準備の必要性: 移住児童が現地の学校に統合される前に、言語準備（タイ語教育）が必要である。

- **移動性の高さ**: 移住労働者家族の**頻繁な転居や職場（建設現場など）の移動**により、データ収集と追跡調査が困難である。
- **予算の不足**: 移住児童支援のための**予算配分が不十分**である。
- **法的枠組みの欠如**: 適切な実施を導く**明確な規制や法的枠組みがない**。

3-7. 今後のプロジェクト/活動の実施計画

タップマー市は、以下の活動を通じて、移住児童への教育支援と社会統合を促進する予定である。

- **学習・交流センターの設立**: タップマー市内に移住教育のための学習・交流センター（タップマー・プラザ / Thapma Plaza）を設立する。
- **ボランティアの採用**: センターのために**専属のボランティア**（退職した教師や地域リーダーなど）の採用プログラムを実施する。
- **異文化交流**: 社会的に活動的な**高齢者**と移住労働者間の言語および文化交流活動を実施する。
- **高齢者支援ボランティアプログラム**: 移住児童および青少年を、デイケアセンターや認知症カフェでの**高齢者支援ボランティア活動**に参加させる。
- **家庭・コミュニティ訪問**: 移住労働者向けの家庭訪問およびコミュニティ訪問プログラムを実施する。
- **モデルコミュニティセンターの設立**: モデルコミュニティセンター「タップマー・テイクケア・コミュニティ（Thapma Take Care Community）」を設立する。
- **模範企業制度**: 移住労働者の教育支援および関連イニシアティブを促進・支援する**模範的な施設（企業）の認定制度**を開発する。
- **相談ホットライン**: 移住教育に関するアドバイザリー・ホットライン（สายด่วน）を設置する。

4. 専門家による講評

（１）Prof. Takashi Notsu, Hyogo University（野津 隆志 教授、兵庫県立大学）

野津教授は、主に日本の移住児童教育支援の事例紹介、およびタイにおけるプロジェクトの課題解決への提言を行った。

- **日本の事例とボランティアの重要性**: 日本では、学校の教師や自治体だけでは外国人児童生徒の教育を完遂できないことが判明し、**ボランティアの重要性**が認識されてきたことを紹介した。神戸には 100 以上の学習支援教室があるが、これは両親が日本語や日本の教育制度を理解できないため、**学習支援ボランティア**が学校での教育内容の補足し支援する必要があるためであると説明した。
- **教育の便益**: 外国人の子どもが教育を受けると良い理由について、教育は子どもの将来の選択肢を広げ、より良い仕事に就き、より多くの所得を稼いで納税することが可能になることを強調した。また、より良い教育を受けることにより、**犯罪を犯す割合が下がる**という研究結果も既に出ていることに言及した。
- **タイの課題への認識**: タイの状況は日本と似ており、**タイ語ができない親とのコミュニケーションが難しい**という問題や、職場の移動が頻繁なため児童生徒の転校先を追跡できないという問題があることを指摘した。

- **ボランティアへの期待**：就学促進ボランティアに対し、親が子どもの教育の重要性を理解していないことが大きな問題であるとし、親に子どもの教育の重要性を説明する役割を担うよう求めた。
- **プロジェクトの性質**：この事業は、日本が技術や予算を提供するだけでなく、タイと共に**解決策を見出していく「学び合いのプロジェクト」**であると強調した。

(2) Asst.Prof. Thanyaporn Chantaravech, Thammasat University (タンヤーポーン・チャンタラウェーチ 助教授、タマサート大学)

タンヤーポーン助教は、タマサート大学社会福祉学部を代表し、プロジェクトの実施フレームワークに関する情報を提供した。

- **MOU と協力フレームワーク**：2024 年 11 月 12 日にタマサート大学社会福祉学部との間で締結された MOU（基本合意書）において、プロジェクト責任者として協力フレームワークに関するプレゼンテーションを行った。
- **教育アクセスと課題への提言**：移住児童に対する教育支援プロジェクトに関するワークショップやセミナー（2025 年 8 月）に参加し、教育へのアクセスに関する課題解決、障壁の低減、および今後の活動計画の策定を支援するための視点や意見交換に貢献した。

(3) Prof. Premjai Vungsiriphisal, Chulalongkorn University (プレムジャイ・ヴンシリパーサーン 教授、チュラロンコン大学)

プレムジャイ教授は、移住児童教育に関する政策、課題、およびタイ社会での教育の役割について、研究と専門的知見を共有した。

- **移住児童教育の課題**：タイの教育制度において、障がい者、外国籍・無国籍児童、貧困家庭の子どもへの教育格差を是正する政策が重視されている背景を強調した。タイの教育における格差は古くから指摘されており、特に農村部とバンコク首都圏の間で就学率の格差が存在することや、貧困が子どもたちの基本的な権利を奪い、質の高い教育を妨げている現状があることを示した。
- **MLC (Migrant Learning Center) の役割と課題**：タイの移住児童教育において、****MLC (移住学習センター) ****がコミュニティによって設立され、正規の教育を受けられない子どもたち（学齢期外の子どもを含む）に対し、代替教育の機会を提供していることを説明した。MLC は識字教育、継続教育、職業訓練などを提供する重要な場であるが、**法的認定の欠如、財政の持続可能性、教育の質の課題**に直面していることも指摘した。
- **教育の法的基盤**：タイの国家教育法（1999 年）は、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマル教育の相互補完性を規定しており、ノンフォーマル教育（NFE）が学校外教育の学習成果を学校教育と互換可能にする制度的基盤となっていることを確認した。
- **研究への貢献**：移住児童の教育に関する状況分析や、チュラロンコン大学との共同研究（2025 年 2 月）を通じて、ワットタップマー・コミュニティ学校やラヨン県特別教育センターなどの教育機関で学ぶ移住児童のデータ収集に協力した。

5. 閉会の挨拶

(1) 教育省学習振興局 (Department of Learning Encouragement) 特別教育センター副所長

DOLE は、学習振興センター (LEC, สกส.) を通じて、移住児童に対するタイ語学習支援プログラムや非正規基礎教育 (NFE) プログラムを提供・継続する主要な実施機関である。

- **継続的な教育支援の実施:** DOLE は、外国籍児童を対象としたタイ語学習支援プログラムや、無国籍児童のための 3 年間の基礎教育プログラムの継続的な実施を担当している。
- **連携の強化:** DOLE は、学校や公衆衛生機関、地方自治体などの関係機関との間の調整メカニズムを強化し、学生証の発行や健康診断などのサービス経路を改善する役割を担っている。
- **カリキュラム改訂:** これまで使用してきているタイ語 200 時間カリキュラムは、タイ人でタイ語を母語としていない人たちを対象にしており、外国籍児童向けに改訂していきたい。また、移住労働者の児童にはタイにすることでタイの権利を与えられると共に、タイ人としてどのように周囲と調和していけるのかについても学んでほしい。
- LEC の教員が教えられるようにしていきたい。

(2) バンコク都教育部

- バンコク都庁の方針、すなわち、すべての学生が平等に教育を受けられるように促進している。外国籍児童を今年だけで 2 万人受け入れていて、これからも増えていくだろう。全児童生徒のうち去年は 7%、今年は 10% に増えている。
- 外国籍児童にまずタイ語を理解してもらえるように、そしてタイの公教育に進学できるように支援することが重要である。
- 移民児童の教育に関するバンコク都委員会を設立した。労働局の代表も参加して、約 30 機関が参加している。JILAF の委員として参加している。移民児童の教育に関する方針を、今後この委員会を通じて決めていく。
- まずお互いを理解し合うことが最も大切である。

(3) SPF、JILAF、および NGZ の代表者

SPF、JILAF、NGZ の 3 団体は、この教育支援プロジェクトの推進組織である。彼らは開会時や会議の総括において、以下の目標を繰り返し強調していた。

- **プロジェクトの目的達成:** 3 団体は、移住児童がパイロット地域 (バーンボン、バーンクンティアン、プラウェート区) の公立教育機関または学習振興センターへ就学するためのシステムを確立し、その肯定的な成果を他の地域での社会統合にまで拡大することを目指している。
- **タイ社会への統合:** 参加者全員に対し、会議で得られた知識や提言を実際に活用し、移住労働者の子どもたちが「タイ社会で生活し、社会を理解できる」ように育成することを求めた。
- **学び合いの重要性:** この事業は、タイと日本が共に解決策を見出していく「学び合いのプロジェクト」であるという認識が示された。

以上

添付資料 1 ワークショップのプログラム

1. 2025 年 11 月 26 日

(1) 開会式

開会の挨拶（ラオー・タンセン バーンボン区長）

挨拶

長縄 真吾 笹川平和財団アジア・イスラムユニット第3グループ長代理
プラウエート区長社会開発部

Ms. Kanya Asawamekin バーンクンティアン区副区長

Mr. Sutin Kaewprathom タップマー市長

萬 理加 UNESCO バンコク事務所 Programme Specialist, Education
Section

(2) 各地域からの活動報告

① バンコク都バーンボン区・バーンクンティアン区

② バンコク都プラウエート区・ラートクラバン区

③ ラヨン県タップマー市

(3) 意見交換

(4) 閉会式

2. 2025 年 11 月 27 日

(1) バーンボン区 LEC 視察

(2) バーンクンティアン区スタマワディー寺視察

Education Support for Migrant Children Bang Bon, Bang Khun Thian

1

Education Support for Migrant Children Bang Bon

2

Education Support for Migrant Children – Bang Bon District Office

3

The education management framework for migrant students aims to ensure that every child can “Access – Stay – Progress” within the Thai education system by:

- Providing life-skills, sports, and arts activities that promote personal development, cross-cultural understanding, and harmonious coexistence within schools.
- Collaborating with external organizations, including local communities and the Foundation for Rural Youth (FRY), to ensure continuous support and development for migrant students.



3

Education Support for Migrant Children – Bang Bon District Office

4

The education management framework for migrant students aims to ensure that every child can “Access – Stay – Progress” within the Thai education system by:

- To provide access for migrant children to enroll in all education levels in alignment with the government policy of 15 years of free, quality education, without any fees.
- To establish a systematic student database through collaboration with the Bang Bon District Registration Office to issue G-code identification numbers, enabling migrant children to build essential foundational skills, and gain access to healthcare services. These will support their development into a healthy and skilled future workforce.



4

Key Challenges and Action Plan– Bang Bon District Office

8

Thai language communication skill: Migrant children tend to have limited Thai language proficiency, which directly affects their classroom learning and communication.

Development approach:

- Homeroom teachers take the lead in supporting and strengthening Thai language skills by providing close, ongoing guidance to students.
- Peer-support model: Migrant students who have already developed basic Thai communication skills are encouraged to act as peer leaders, helping students who are still unable to communicate effectively.



5

Education Support, Foundation for Rural Youth (FRY)

Parent Engagement Meeting on Educational Support for Migrant Children in Bang Bon and Bang Khun Thian Districts

- ❖ To empower parents and community members to take active roles as volunteers in supporting migrant children's access to education.
- ❖ Volunteers help identify and collect information on out-of-school migrant children to understand the situation, locate those in need, and connect them to appropriate support services.
- ❖ A total of **70 participants**, including parents and volunteers, attended the meeting.



Surveying data on out-of-school migrant children

- ❖ Target group: 200 migrant children (Bang Bon and Bang Khun Thian Districts), aged 4–15 years.
- ❖ Survey components: Child-level information and Family-level information
- ❖ Objectives of the survey:
 - To identify factors that hinder migrant children's access to education.
 - To locate school-age children who are currently out of school.
 - To use the findings for coordinated planning with relevant agencies in order to effectively promote migrant children's access to education.
- ❖ Progress: 120 children surveyed so far (survey ongoing).

6




Education Support for Migrant Children- Bang Bon LEC Center and FRY

Thai Language Skills Enhancement

Objectives

To provide migrant children with basic Thai reading and writing skills, enabling them to function confidently in Thai society and transition smoothly into the formal education system.

Target group/learner

Migrant children aged 8-14 who lack Thai communication, reading, and writing skills, and who seek to acquire foundational Thai language abilities to enroll in non-formal education with Bang Bon LEC.

Level	Age (years)	No. (persons)
Basic Thai Language Readiness (Pre-Primary), Level 1	10-13	4
Basic Thai Language Readiness (Pre-Primary), Level 2	10-13	20
Total (Students in semester 2/25)		24

Program Structure/ Curriculum

- ☒ Curriculum: Thai Literacy Curriculum (2014) and the curriculum of the Migrant Learning Center
- ☒ Learning approach: Classroom-based instruction, Monday-Friday, divided into two levels: Level 1 and Level 2
- ☒ Duration: From one semester up to one academic year
- ☒ Instructor: One Thai teacher and one Myanmar teaching assistant
- ☒ Learning Venue: Classroom at Bang Bon LEC center




7

Education Support for Migrant Children- Bang Bon LEC Center and FRY

Non-Formal Basic Education for Non-Thai Children (Three-Year Program)

Target group/Learner

Children aged 8-15 without civil registration documents or Thai nationality, who are considered by the education authority unable to enroll in the formal school system for valid reasons.

Admission Criteria

Passing the basic Thai proficiency assessment required for primary-level learning

Learning Approach

Classroom-based instruction, Monday-Friday

Duration

3 years, but not exceeding 5 years, as children under the compulsory education age at the primary level must not complete the program before turning 12.

Program Completion

In accordance with curriculum requirements. Learners will receive official educational documentation issued by Bang Bon LEC center.

Instructor

One class teacher (Thai, personnel of LEC, appointed by DOE)

Learning Venue

Classroom at Bang Bon LEC center




8

Education Support for Migrant Children- Bang Bon LEC Center and FRY

Non-Formal Basic Education for Non-Thai Children (Three-Year Program)

Level	Age (years)	No. (persons)
Primary Level	11-14	18
Total (Students in semester 2/25)		18



9

Next Steps and Key Challenges – Bang Bon District Area

- ▶ In collaboration with the Bang Bon District Office and the Learning Encouragement Center (Bang Bon LEC), a seminar was organized to present the survey findings on migrant workers' children who lack access to education. The seminar brought together relevant agencies, schools, and the district LEC to jointly use the data for planning and developing coordinated actions that support appropriate educational access for migrant children.
- ▶ Continuous implementation of Thai language support classes and non-formal basic education programs for non-Thai children (3-year curriculum) is being carried out to ensure ongoing learning opportunities for children without legal status.

10

Education Support for Migrant Children Bang Khun thian

11

Situation of Migrant Children – Bang Khun Thian District Office

General Educational Overview of Bangkok (BMA) and Bang Khun Thian District

Bangkok Metropolitan Administration (BMA) is a special form of local government, headed by the Governor of Bangkok and the Bangkok Metropolitan Council, both of whom are directly elected by Bangkok residents. They are responsible for setting the policies and strategic directions of the city. Education is one of these key policy areas, and district offices play a crucial role in implementing these policies within their respective localities.

Bang Khun Thian District Office is one of the administrative units under the Bangkok Metropolitan Administration. It is responsible for supporting educational services for all 16 BMA-affiliated schools within the district. The district oversees approximately 700 teachers and a total student of around 14,300.

In addition, within the Bang Khun Thian District, there are other institutions that provide formal education services, including 10 private schools, 4 government schools under the Ministry of Education, and 1 university.

12

Education Support for Migrant Children – Bang Khun Thian District Office

- ▶ The Bang Khun Thian District Office, as a government agency, is required to comply with all laws and regulations related to education, including the Convention on the Rights of the Child, the Constitution of the Kingdom of Thailand, the National Education Act B.E. 2542 (1999), and the Cabinet Resolution dated 5 July 2005. In summary, the Bang Khun Thian District Office and its affiliated schools have the duty to ensure equitable access to education for all children and youth, without discrimination based on socio-economic background, health conditions, gender, religion, nationality, or any other status.
- ▶ All students under the Bangkok Metropolitan Administration are entitled to equal access to educational welfare and support, including school uniforms, textbooks, learning materials, personal supplies, breakfast, lunch, milk, accident insurance, sanitary products, and other essential provisions.



13

Education Support for Migrant Children – Bang Khun Thian District Office

▶ Potential of Migrant Children

With the Bangkok Metropolitan Administration's educational policies promoting equitable learning opportunities, schools under the Bang Khun Thian District Office encourage all students to showcase their abilities each academic year. Migrant students, who are part of these school communities, have also demonstrated outstanding potential.

In the previous academic year, many migrant students received recognition for their achievements in various competitions, including English speech contests, Spelling Bee competitions, and Open Dictionary challenges.



14

Education Support for Migrant Children – Bang Khun Thian District Office

► Support from the JILAF Foundation

Following joint discussions between the Bang Khun Thian District Office and the JILAF Foundation, the District Director consulted with temples in the area, namely Wat Suthammavadi and Wat Kamphaeng, to prepare both sites as a “pilot classroom” and “pilot area” for the implementation of the Foundation’s project.

At present, Wat Suthammavadi has already begun implementing the project, while Wat Kamphaeng is in the process of inspecting the classroom building following recent construction.



15

Key Challenges– Bang Khun Thian District Office

► Concerns of the Bangkok Metropolitan Council:

Over the past year, the Education Committee of the Bangkok Metropolitan Council has monitored the teaching and learning conditions, as well as key challenges faced by schools under the Bangkok Metropolitan Administration in Bang Khun Thian District. One of the Council’s primary concerns is that the high number of migrant children may affect Thai cultural values and raise questions regarding the efficient allocation of resources used to provide Thai language foundational support.

Additionally, the Council reflected concerns expressed by Thai parents, who worry that the behaviors of students may be influenced or changed due to classroom dynamics involving migrant children.



16

Key Challenges– Bang Khun Thian District Office

- **Behavioral concerns involving migrant students:**

While many migrant students in Bang Khun Thian schools demonstrate strong potential, some students have been involved in inappropriate behaviors, including the use of e-cigarettes, bullying, and other misconduct. These incidents contribute to negative perceptions of migrant children within certain communities.



17


Education Support for Migrant Children
Wat Suthammawadee
Department of Learning Encouragement
(DOLE)
Bang Khun Thian District



18



Objectives

1. To increase equitable and comprehensive access to education
 - Support the lawful admission of migrant children into the education system.
 - Reduce the number of dropouts and out-of-school children in coastal areas and migrant communities in Bang Khun Thian area.
2. To develop foundational Thai and English language skills
 - Promote Thai language learning for daily living and school readiness.
 - To strengthen English proficiency to improve communication capacity and confidence.

19



Objectives

3. To enhance life skills and appropriate vocational skills
 - Organize activities that promote life skills related to safety, hygiene, and social integration within Thai society.
 - Provide short-term vocational training tailored to the needs and context of the community.
4. To create a safe and inclusive learning environment that embraces cultural diversity
 - Promote cultural understanding within educational settings.
 - Reduce discrimination and social violence experienced by migrant children.

20

Objectives



5. To empower migrant families and communities to participate in education

- Provide information on educational rights to parents.
- Build collaboration with community leaders, migrant worker centers, and local organizations.

21

Objectives



6. To develop coordination mechanisms among government agencies, private sector partners, and civil society organizations

- Integrate efforts between the Department of Learning Encouragement, schools in Bang Khun Thian District, public health services, local administrative organizations, and migrant-focused foundations.
- Enhance service pathways, such as student ID issuance, health screening, and referral for additional support.

22

Objectives



7. To enhance the learning outcomes of migrant children so they can adapt and succeed in Thai society

- Promote 21st-century learning skills.
- Conduct continuous assessment of development and learning outcomes to improve and refine appropriate approaches.



23

Key Challenges in Bang Khun Thian Area



1. Limited access to education for migrant children
 - Communities are dispersed across worker housing areas, factories, and coastal settlements.
 - Parents are reluctant to enter the system due to concerns about documentation or fear of being inspected or arrested.
 - Many children do not have birth certificates or identity documents, causing delays in school enrollment.

24

Key Challenges in Bang Khun Thian Area



2. The high mobility rate among migrant worker families

- Migrant worker communities experience frequent relocation.
- Children often drop out midway, resulting in disrupted learning.
- Schools and DOLE struggle to track students in time.



25

Key Challenges in Bang Khun Thian Area



3. Language and cultural differences

- Many children have limited Thai listening and speaking skills, making it difficult for them to keep up with classroom content.
- Some families have limited understanding of the Thai education system.
- Linguistic diversity (e.g., Myanmar, Mon, Khmer, Lao) requires teachers to adapt instructional methods to suit different groups.



26

Key Challenges in Bang Khun Thian Area

4. Teachers and educational personnel lack specialized expertise in working with migrant children

- Some teachers are not familiar with multicultural or culturally responsive teaching approaches.
- There is a shortage of skills in delivering Thai as a Second Language (TSL) instruction.
- The number of teachers is not proportionate to the needs of specific learner groups in certain schools or learning centers.

27

Key Challenges in Bang Khun Thian Area

5. Limited budget and insufficient resources

- Funding allocated for migrant children remains restricted.
- Teaching and communication materials in two to three languages are still inadequate.
- Community learning centers largely depend on external network support for essential resources.

28

Key Challenges in Bang Khun Thian Area

6. Legal and documentation challenges faced by migrant families

- Some parents do not hold valid work permits, resulting in reluctance to send their children to school.
- The absence of identity or status documents for some children hinders school admission processes.
- The risk of arrest causes families to avoid contact with public authorities.

29

Key Challenges in Bang Khun Thian Area

7. Health and safety risks

- Many families work in factories, exposing children to high-risk living environments.
- Limited knowledge of basic hygiene practices, such as vaccinations and disease prevention.
- Some children must work to support their families, resulting in frequent absences from school.

30

Key Challenges in Bang Khun Thian Area

8. Weak inter-agency coordination

- Data sharing among schools, DOLE, public health units, and local administrative organizations is not yet systematic.
- There is no strong mechanism to track out-of-school children or new arrivals in the area.
- Current support relies more on short-term or ad-hoc projects rather than a permanent, integrated system.

31

Key Challenges in Bang Khun Thian Area

9. Negative social attitudes and stigma

- Some migrant children experience teasing or discrimination from peers.
- Certain community members express concerns about health or safety, which affects the children's adjustment and overall environment.



32

活動報告（プラウエット区、ラートクラバン区）



1

Education Support for Migrant Children, BMA Schools, Prawet District Office

- **Education Access:**

Schools provide opportunities for migrant children to enroll free of charge, in line with the “Good Education, Free Education with Quality” policy, equal to Thai students. This includes breakfast, lunch, milk, textbooks and workbooks, learning materials, and school uniforms.

- **Scholarships:**

Scholarship allocation and student support are fair and equitable, with assistance available from internal and external agencies.

- **Educational Certification:**

Upon completion of the curriculum, migrant children receive the same educational qualifications as Thai students, which can be used for further study.

- **Development Support:**

Schools provide activities to strengthen Thai language skills and social adaptation, helping migrant children learn and integrate happily alongside their peers.



2

Community Leaders' Meeting on Supporting Migrant Children's Education

On 25 August 2025, from 09:00 a.m. to 12:00 p.m., a Community Leaders' Meeting on Supporting Migrant Children's Education was held at the 7th-floor meeting room of the Prawet District Office. Participants included:

- representatives from the JILAF Foundation
- officers from the Education Division and the Community Development Division of the Prawet District Office
- community leaders from six communities in the Prawet District who joined the meeting with JILAF.

The six participating communities were:

1. Thepraksaa Community
2. Samakkhi Tham Community
3. Ko Loeng Samphan Community
4. Premruethai Community, Block 17
5. Thap Chang Lang Fang Thon Community
6. Pak Khlong Song Hong Community



3

Community Leaders' Meeting on Supporting Migrant Children's Education



4

Thepraksaa Community

General Information of the Community

Location:

Soi On Nut 84, Prawet Subdistrict, Prawet District, Bangkok

Community Boundaries:

- **North:** Adjacent to On Nut Road
- **South:** Adjacent to the On Nut Solid Waste Disposal Center
- **East:** Adjacent to Samakkhi Tham Community
- **West:** Adjacent to Pak Khlong Song Hong Canal

Number of Households: 170 households

Total Area: Approximately 15 rai

Community Type: Informal settlement / low-income community

5

Thepraksaa Community

General Condition of the Community

The Thepraksaa Community consists of households built on privately owned land. The community is accessible through small roads and alleys where cars can enter and exit conveniently. Most residents originally purchased land to build their own houses, but many of these homes are now rented out as rooms for tenants.

The surrounding environment is affected by unpleasant odors due to the community's proximity to the On Nut Waste Disposal Center. A large number of residents work in waste collection and sorting, which results in leftover waste being stored within the area. The community has been established for over 20 years.

There are two access routes to the community: Soi On Nut 84 and Soi On Nut 86, with concrete roads connecting the internal pathways for convenient travel. At present, many migrant workers rent rooms and reside within the community.

6

Thepraksaa Community's Environment



7

Activities in Thepraksaa Community

Educational Activity on COVID-19
Awareness for Children in Thepraksaa
Community



Children's day Activities



8

Next Steps & Key Challenges in Prawet District

Bangkok Metropolitan Administration's Policy on Educational Support for Non-Thai Children

Bangkok Metropolitan Administration (BMA) places strong emphasis on equitable access to education for all children, regardless of nationality. The policy ensures that every child has the right to quality education without financial barriers, recognizing education as a critical foundation for improving children's potential and overall quality of life.

Key Policy Principles

- **Equitable Access to Education:** BMA provides clear guidelines to ensure that non-Thai children can enroll in BMA schools, delivering equal access to learning opportunities for every child.
- **15-Year Free Education:** Children residing in Thailand are entitled to 15 years of free, quality education, without any tuition fees or related costs.
- **Capacity Development:** Education is a vital tool for enhancing abilities and life opportunities of every child in the society.
- **Importance of Education:** BMA values education as a means for all children to reach their full potential and integrate successfully into society.

9

Next Steps & Key Challenges in Prawet District

Implementation Measures

- **Student Admission:** Prawet District Office convened the Student Admission Committee of BMA schools in the district to prepare official announcements and guidelines for admitting non-Thai students effectively and in accordance with BMA policy.
- **Coordination Efforts:** Coordination has been carried out with Wat Krathum Suea Pla School and Krathum Suea Pla Temple to provide classrooms for migrant children in Prawet District areas. Wat Krathum Suea Pla has arranged two Saturday classrooms to support learning spaces for these children.

10



Education Support for Migrant Children

Department of Learning Encouragement, Prawet District

11

Action Plan



1

Research



2

Analyze



3

Implement

12

Class Atmosphere for Non-Literate Learners



13

Class Atmosphere for Non-Literate Learners



14



15



16



17



18

End of Presentation

Thank You

19

Education Support for Migrant Children – Thepraksaa Community

Educational support activities for children in low-income communities in the Prawet District. These activities aim to improve the quality of life for underprivileged children.

The Foundation has supported various community-based initiatives, such as Children's Day events, New Year celebrations, and mobile library services, with strong collaboration from community leaders.



New Year Celebration



Mobile Library Service



Educational Encouragement Activities for Community Children

20

Key Challenges

- Strengthening understanding among relevant agencies
- Identifying individuals with knowledge and expertise related to migrant worker children
- Encouraging children to learn new languages, not only their mother tongue languages
- Stimulating community members to recognize the importance of migrant children and their right to education



Action Plan

- Enhancing Thai language learning for 5 days a week
- Supporting children's access to both formal and non-formal education
- Developing teaching and learning materials tailored for children from migrant worker families



21

Education Support Center for Migrant Children Lat Krabang District

22

Education Support for Migrant Children, Wat Wachirathamawat and Zone 5 Community

Wat Wachirathamawat Housing



Learners: Buddhist monks from Bangladesh

Number of learners: 12

Key characteristics: Adult learner group (Buddhist monks)

Primary objective: basic communicative Thai skills

Progress: Learners can now communicate in Thai for basic daily interactions. They can recognize, recall Thai consonants and vowels and are able to spell and read some simple Thai words.



Learning Center Map
Wat Wachirathamawat



23

Education Support for Migrant Children, Wat Wachirathamawat and Zone 5 Community

Zone 5 Community Housing Housing



Learners: Migrant children and youth from multiple nationalities (Burmese, Pa'O, Mon, Lao)

Number of learners: 19

Key characteristics:

- Linguistic diversity (4 language groups)
- Wide age range (5 learners under 15 years old, 14 learners over 15 years old)

Progress: Learners have gained cultural awareness and understanding of Thai social etiquette, learned Thai consonants and vowels, and improved in basic word spelling.



Learning Center Map
Zone 5 Community
Housing



24



Key Challenges

Learner's differences

1. Two distinctly different learner groups:
 - Buddhist monks
 - Non-Thai migrant learners
2. Wide age range of learners: Learners range from 14 years old and above, creating varied learning needs.
3. Linguistic diversity: Learners speak four different mother tongues: Burmese, Pa'O, Mon, and Lao.
4. Teaching non-literate learners:
 - All learners have no foundational knowledge of Thai.
 - Instruction must rely on listening–speaking techniques, repetition, and memory-based learning.

25



Plans and Approaches

1. Develop tailored learning materials
 - Create separate instructional books for two target groups:
 - Buddhist monks
 - Non-Thai migrant learners
2. Form small learning groups
 - Pilot grouping learners by age or learning progress to enhance effectiveness.
3. Create bilingual flashcards
 - Develop foundational vocabulary flashcards in Thai–English, with visual illustrations to support comprehension.
4. Emphasize practical application
 - Increase activities that focus on real-life communication and daily language use.

26

**THE PROJECT ON EDUCATION SUPPORT FOR MIGRANT
CHILDREN THROUGH MUTUAL LEARNING BETWEEN
THAILAND AND JAPAN
THAPMA SUBDISTRICT MUNICIPALITY,
RAYONG PROVINCE**

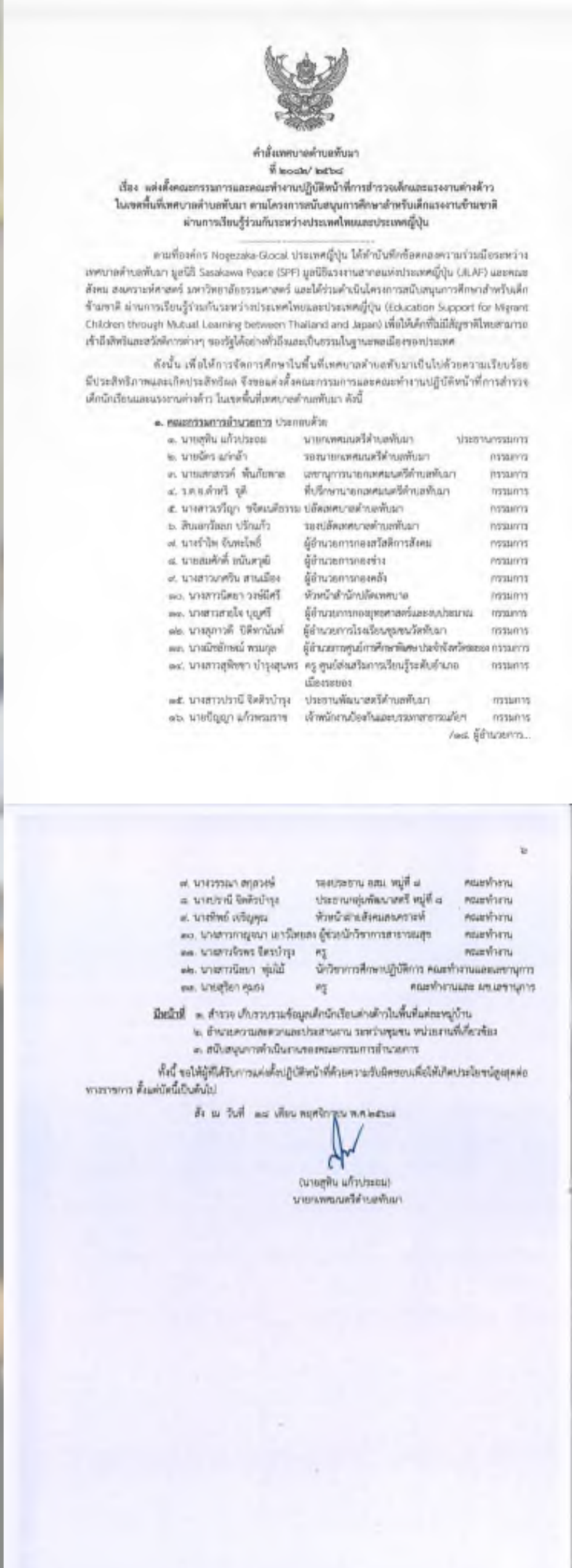
Project Implementation: Education Support for Migrant Children through Mutual Learning between Thailand and Japan

- 1 Issue an official order appointing the project steering committee and working groups.
- 2 Conduct a survey and collect data on migrant children in the Thap Ma Subdistrict area.
- 3 Prepare a draft Memorandum of Understanding (MOU) for review by the District Office, the Provincial Office, and the Department of Local Administration; subsequently submit it to the Ministry of Interior for approval.
- 4 Sign an MOU with the Faculty of Social Administration, Thammasat University (12 May 2024).
- 5 Sign MOUs with other relevant agencies and organizations (Sazagawa / JILAF / Nogeza Glocal / Thap Ma Subdistrict Municipality) (5 October 2025).
- 6 Implement the project to achieve its objectives efficiently and effectively, ensuring the greatest possible benefits for the community, children, and youth.



Project Implementation Team

- 1. Official order appointing the committee and working group responsible for surveying migrant children and foreign workers within Thap Ma Subdistrict. Thap Ma Subdistrict Municipality Order No. 229/2567, issued on 20 February B.E. 2567 (20 February 2024).
- 2. Revised official order appointing the committee and working group responsible for surveying migrant children and foreign workers within Thap Ma Subdistrict. Thap Ma Subdistrict Municipality Order No. 2082/2568, issued on 18 November B.E. 2568 (18 November 2025) (revised).



Committee and Working Group Responsible for Conducting the Survey of Migrant Children and Foreign Workers in Thap Ma Subdistrict

1. Local Administrative (Village Governance) Section, comprising the Subdistrict Headman (Kamnan), Deputy Subdistrict Headmen (Sarawat Kamnan), Village Heads (Phuyaiban), and Assistant Village Heads—56 persons.
2. Thap Ma Subdistrict Municipality Section, comprising:
 - Municipal executives and heads of municipal departments—13 persons.
 - Educational officers, nurses, public health officers, social workers, community development officers, disaster prevention and mitigation officers, teachers, and other assigned personnel—56 persons.
3. Community Volunteer Section, comprising:
 - Community committee members and Village Health Volunteers (Aor Sor Mor / VHVs)—300 persons.
 - Women's Development Volunteers Group—80 persons.

Duties:

1. **To survey and collect data on migrant/foreign students in each village.**
2. **To facilitate and coordinate cooperation among communities and relevant agencies.**

FIRST ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION



On 31 August B.E. 2566 (31 August 2023),

Ms. Reweeya Khajitnetitham, Municipal Clerk of Thap Ma Subdistrict Municipality, together with department heads, Mr. Winai Tharapsin (Village Head of Moo 8), and municipal officers and staff, jointly conducted an on-site survey and collected data on migrant children in the area with Mr. Toshiyuki Okui, a representative of the Nogezaka-Glocal Organization, Japan.

The survey was carried out at Kway Teow Cham Kala Rim Mueang Restaurant, Ban Saphan Hin Community (Moo 8), and Rayong Fish Sauce Industry Co., Ltd.

FIRST ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION



SECOND ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION



29 February 2024

Mr. Prasert Wongsri, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, assigned Ms. Nattirath Chaedchoo, Director of the Education Division, together with teacher-officials, educational personnel, and municipal staff of Thap Ma Subdistrict Municipality, to conduct an on-site survey and collect data on the migrant child population in the area of Moo 8, Ban Saphan Hin, Thap Ma Subdistrict, Mueang Rayong District, Rayong Province.



THIRD ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION

On 13 February 2025,

Mr. Prasert Wongsri, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, assigned Ms. Nattirath Chaedchoo, Director of the Education Division, together with Mr. Winai Tharapsin (Village Head of Moo 8, Thap Ma Subdistrict) and municipal officers, to conduct an on-site survey in collaboration with Thammasat University, the Foundation for Rural Youth, and Japanese students, as well as partner organizations from Japan, namely the Sasakawa Peace Foundation (SPF), Nogezaaka-Glocal (NOGEZAKA-GLOCAL), and the Japan International Labour Foundation (JILAF).

The team surveyed and collected data on the migrant child population in Moo 8, Ban Saphan Hin, Thap Ma Subdistrict, Mueang Rayong District, Rayong Province.



FOURTH ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION



On 18 February 2025

Mr. Prasert Wongsri, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, assigned Ms. Nattirath Chaedchoo, Director of the Education Division, together with municipal officers of Thap Ma Subdistrict Municipality, to conduct fieldwork in collaboration with Chulalongkorn University and Japanese partner organizations, namely the Sasakawa Peace Foundation (SPF), Nogeza-Glocal, and the Japan International Labour Foundation (JILAF). The team collected data on the migrant child population from Wat Thap Ma Community School, the Rayong Provincial Special Education Center, and Thap Ma Kindergarten School, in order to survey and gather information on migrant children enrolled in educational institutions within Thap Ma Subdistrict, Mueang Rayong District, Rayong Province.

FIFTH ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION

On 7 August 2025,

Ms. Reweeya Khajitnetitham, Municipal Clerk of Thap Ma Subdistrict Municipality, together with department heads, Mr. Winai Tharapsin (Village Head of Moo 8, Thap Ma Subdistrict), and municipal officers and staff, welcomed Mr. Toshiyuki Okui, representative of the Nogeza-Glocal Organization, Japan, and the project team.

The group jointly conducted an on-site survey and collected data on the migrant child population within Thap Ma Subdistrict, specifically in the Ban Saphan Hin Community, Thap Ma Subdistrict, Mueang Rayong District, Rayong Province.



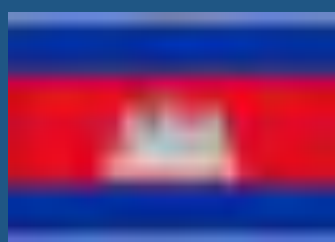




Myanmar



Laos



Cambodia

SIXTH ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION

Between 12–21 November 2025 at 4:30 p.m., Mr. Sutin Kaewprathom, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, assigned Ms. Nattirath Chaedchoo, Director of the Education Division, together with a disaster prevention and mitigation officer, a registered nurse, teachers from Thap Ma Kindergarten School, a social worker, a community development officer, the Thap Ma Subdistrict administrative (local governance) team, and members of the Thap Ma Subdistrict Municipal Council, to conduct field visits in Moo 1–8. The purpose was to survey and collect data on migrant children and migrant workers residing within the jurisdiction of Thap Ma Subdistrict Municipality.

This field survey aimed to compile baseline information on migrant children and foreign workers in the area, to serve as a foundation for planning and implementing appropriate projects in education, public health, and social welfare. In addition, the activity provided an opportunity for information exchange, reflection on existing issues, and joint identification of solutions, thereby enhancing the effectiveness of municipal operations and ensuring that they respond genuinely to the needs of local residents.

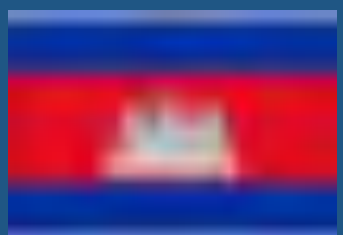




Myanmar



Laos



Cambodia



Bangladesh

SIXTH ON-SITE FIELD SURVEY AND DATA COLLECTION

12–21 November 2025



EDUCATIONAL SUPPORT ACTIVITIES FOR MIGRANT CHILDREN



Thap Ma Kindergarten School implements activities to promote the education of migrant children, focusing on enabling them to communicate, develop imagination, and interact effectively with others. One of the key activities is storytelling sessions conducted by foreign teachers, designed to support appropriate development across all four developmental domains for migrant students.



MEMORANDUM OF UNDERSTANDING (MOU) SIGNING CEREMONY



On 12 November 2024 at 9:00 a.m., the signing ceremony of the Memorandum of Understanding (MOU) was held in Meeting Room SK.406, Faculty of Social Administration, Thammasat University (Rangsit Campus). Mr. Prasert Wongsri, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, together with Ms. Reweeya Khajitnetitham, Municipal Clerk, and the municipal executive team, joined the ceremony in collaboration with the Faculty of Social Administration, Thammasat University (Rangsit Campus). The event was opened by Assoc. Prof. Dr. Atchara Chalayonnavin, Dean of the Faculty of Social Administration. A presentation on the collaboration framework was delivered by Asst. Prof. Dr. Thanyaporn Chantaravech, Project Lead. In addition, Ms. Masako Iwashina, Program Officer of the Social Innovation Program, Sasakawa Peace Foundation (SPF), spoke about the objectives and significance of this cooperation. The ceremony was also honored by the presence of Mr. Toshiyuki Okui, representative of Nogeza Glocal, and Mr. Teruhiko Sekiguchi, representative of the Japan International Labour Foundation (JILAF) in Thailand, who served as witnesses to the signing of the MOU for the Educational Support Project for Migrant Children through Collaborative Learning between Thailand and Japan. The aim of this cooperation is to contribute to Thai society by supporting access to education for migrant children in Thailand.

PROJECT PROGRESS UPDATE

– 25 AUGUST B.E. 2025

Mr. Sutin Kaewprathom, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, together with the municipal executive team, Ms. Reweeya Khajitnetitham, Municipal Clerk, heads of municipal departments, the Subdistrict Headman (Kamnan), village heads, community leaders, and local business representatives, participated in a coordination meeting to prepare for the implementation of the Educational Support Project for Migrant Children through Collaborative Learning between Thailand and Japan.

The meeting aimed to assess readiness, organize and verify necessary data, exchange information among relevant sectors, identify issues, and develop practical solutions to ensure that the project proceeds effectively and successfully.



WORKSHOP ACTIVITY – 26 AUGUST 2025



At the Executive Meeting Room, 2nd Floor, Thap Ma Subdistrict Municipality, Mr. Chat Kakla, Deputy Mayor, presided over the opening of the workshop for the Educational Support Project for Migrant Children, and welcomed representatives from Japan, including Mr. Toshiyuki Okui (Nogezaka-Glocal), Prof. Takashi Notsu (Sasakawa Peace Foundation: SPF), and representatives from the Japan International Labour Foundation (JILAF).

A workshop and discussion session was also held at Thap Ma Kindergarten School, where school administrators, teachers, students, and parents were interviewed. The activity aimed to exchange perspectives and gather information on supporting migrant children in Thailand, helping to identify challenges in accessing basic education, reduce barriers, and guide the planning of future project implementation.

SEMINAR AND STAKEHOLDER EXCHANGE – 27 AUGUST 2025



On 27 August 2025, at the Multi-purpose Building Meeting Hall of Thap Ma Subdistrict Municipality, Mr. Sutin Kaewprathom, Mayor of Thap Ma Subdistrict Municipality, together with the municipal executive team, municipal council members, department heads, the Subdistrict Headman, village heads, village health volunteers, and community committee members, participated in a seminar and discussion session. The event was joined by representatives from Japan, who contributed to the exchange of ideas and perspectives. The seminar provided an open platform for all sectors to share viewpoints, experiences, and practical information. The insights gathered will support the development of strategies to help migrant children in Thailand access basic education equitably, reduce learning barriers, and guide effective planning for the next phase of the project.



Memorandum of Understanding (MOU) Signing Ceremony

6 October 2025
at sasakawa peace foundation in japan



The signing ceremony for the Education Support for Migrant Children through Mutual Learning between Thailand and Japan was held on 6 October 2025 at the Sasakawa Peace Foundation (SPF), Japan.

Thap Ma Subdistrict Municipality (Rayong Province), the Sasakawa Peace Foundation (SPF), Nomezaka Glocal, and the Japan International Labour Foundation (JILAF) jointly signed the MOU. The cooperation aims to promote, strengthen, and enhance the educational support project for migrant children through collaborative learning between Thailand and Japan. The implementation will be carried out in accordance with relevant national laws, regulations, and policies, based on principles of equality and mutual benefit.

6 October 2025

- At 1:30 p.m., the delegation held an official meeting with the Japan International Labour Foundation (JILAF).



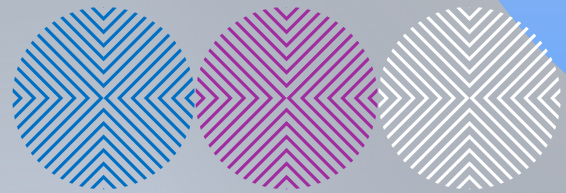
6 October 2025

- At 3:00 p.m., the delegation participated in a volunteer activity at the Japan International Cooperation Agency (JICA), Ichigaya District.



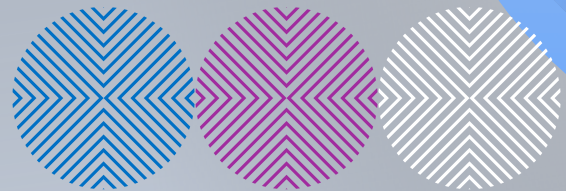
7 October 2025

- At 10:00 a.m., the delegation visited the CASACO Community Space and Children's Empowerment Center, operated by the non-profit organization "Connection of the Children (COC)".



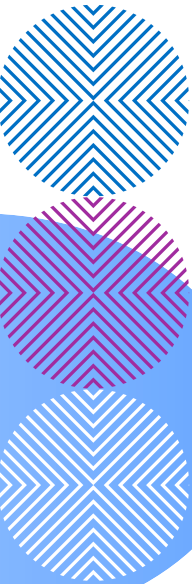
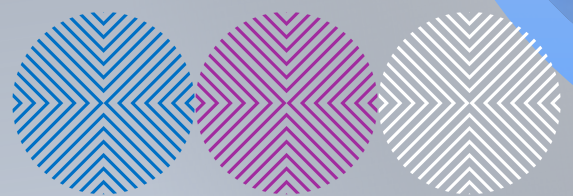
7 October 2025

- At 12:30 p.m., the delegation joined child-support activities led by community volunteers.



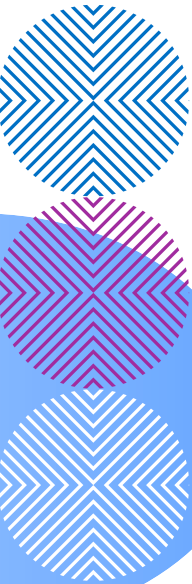
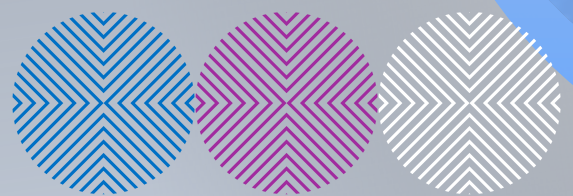
7 October 2025

- At 3:00 p.m., the delegation visited the “Nishitomo-Hiroba” Community Support Center, operated by the municipal government.



7 October 2025

- At 4:00 p.m., the delegation observed learning-support activities for migrant children conducted by volunteers.



8 October 2025

- At 10:00 a.m., the delegation visited the Children's Support Center operated by the non-profit organization "Hareno-hi Keno-hi".



8 October 2025

- At 12:30 p.m., the delegation visited the International Home Care & Rehabilitation Exhibition (HCR) 2025.



9 – 10 October 2025

- official meeting with the Mayor of Yugawara and visited various municipal activities and programs.



Project / Activity Implementation Plan

1. Establishment of a Learning and Exchange Center for Migrant Education under Thap Ma Subdistrict Municipality (Thapma Plaza).
2. Recruitment of volunteers for the center.
3. Language and cultural exchange activities between socially active older adults and migrant workers.
4. Program for migrant children and youth to participate in volunteer activities supporting the elderly at the Day Care Center and Dementia Café.
5. Home and community visit program for migrant workers.
6. Establishment of a model community center (Thapma Take Care Community).
7. Development of model establishments that promote and support migrant worker education and related initiatives.
8. Establishment of a migrant education advisory hotline.



THANK YOU.

